

俳句をつくる②

窪田英治先生

実施日：令和3年8月24日（火）



第9回目は前回に引き続き、窪田英治先生を講師に招き、生徒が作った俳句の添削をしていただいた。「季語は必要だがなるべく1つにし、重複は避けること」「報告・説明はしない」「漢字とひらがなを上手に使い分けること」「切れを入れるとリズムが出る」など、適切なアドバイスを頂戴した。また、俳句づくりのイメージを膨らませるため、白紙に言葉を書き込んでマインドマップを作り、連想していく手法を教えていただいた。今回のテーマは、『今年の夏休み』ということで、生徒は思い思いの言葉を紙に書きつけ、5・7・5のリズムに乗せて俳句を考えていた。一から自分で言葉を紡いで作品を生み出すむずかしさと同時に、楽しさも感じながら制作を進めることができた。

【生徒の授業日誌より】

・みんなの俳句を読み、よくできているなと思った。俳句について知らなかったことをたくさん知ることができて、とても勉強になった。俳句はほんの少しのうそ（話を盛る）を入れてもいいということを初めて知った。

・自分が季語だと思っていた言葉が季語だったりして驚いた。必ずしも五七五である必要はないんだなと感じた。切れを入れることで俳句らしさが出ることや、数字は漢数字で書くことがわかった組み合わせを変えるだけで印象がガラッと変わることがわかった。

・俳句を作るのは自分が思っているよりも難しく、「ルールがあるんだなあ」と思いました。みんなが作った俳句を見ると、作り方がキレイな人が何人かいて、「言葉選びが上手だなあ」と感じました。また、季語ではなさそうな言葉が季語だったりして驚きました。